

さんもく工業の **力**

日本は「木の文化の国」です。古来から「適材適所」に木を使ってきた知恵と^{わざ}技によるもの造りをしてきました。

さんもく工業は木とともに80 有余年の間歩んでまいりました。

従来木材は建築材料として長い間使われてきました。

それは、四季がある日本の気候風土に合い湿度が多い季節には湿気を吸収して

また乾燥する季節には湿気を出して快適な環境を与えてくれています。

触った感じも温かくそんな木がとっても好きな民族です。

木を屋外にも使いたいとの声に、当社の保存処理技術が少なからず寄与してきました。

その声を大切に今後もさんもく工業は保存処理技術で良質な屋外製品を作り続けます。

また、当社では加工する際に出た、端材等をリサイクル原料として販売するなど

余すことなく木を使用しています。

そして、都市に木を増やすことで、空気がきれいになり

木の熱を溜め込まない性質を活かしヒートアイランド現象を

防げるのではないかと考えています。

まずは自分で考える

木製品部 加藤 翔さん

これがさんもく工業の基本です。自分で考え、問題と向き合うことで今までなかったアイデアや発想が生まれてきます。分からないことがあっても、すぐに聞かず、自分で考える時間を与えてくれます。そして、自分なりの答えを出した上で、上司の意見を聞き、一緒に最高の答えを探し出すことで新入社員にも提案する機会が与えられ、さまざまな事に挑戦できる会社です。

お客様が本当に喜んでくれる商品を作りたい

地域を活性化させたい

さんもく工業にしかない商品を作りたい

この思いを胸に、これからも私は、知恵を絞り、知識を使いより良い商品を提案していきます。

さんもくのこだわり

弊社製品はすべて受注生産です。

設計スタッフが立案、デザイン、設計によって最高のものづくりを敢為の精神で設計しています。

最新の多軸加工機・熟練の大工による精度の高い加工技術と80有余年蓄えた防腐技術で「安心・安全」の木製品を提供します。

さんもく工業の歴史は、鉄道用の枕木や、電柱など木材を強くする考えに原点があります。長年培った木材防腐技術で、木を活かした製品作りを心がけております。

さんもくの取組

■ファインプレー賞

社員の日常で「安全・品質・効率」の向上に繋がる行動を他の社員が発見し「ファインプレー」として報告する。部署間を超えたコミュニケーションへと繋がります。

職場を見る目、他の社員を見る目が変わり社員のモチベーションもあがり良質な製品を生み出せる環境づくりのひとつです。

■ちょっと改善

社員の日常でちょっとした改善を報告する。他の社員のちょっとした改善が刺激となり、発表することで他部署にまで広まる。

小さい改善を積み重ねることで日々、「安全・品質・効率」の向上を目指しています。

この活動は弊社にとって大切なコミュニケーションのひとつとなっています。

■ヒヤリハット報告

日常の通勤、作業中などに危険を感じたことを「どこで・どんなときに・どうなった」の報告し注意を促しています。

特に製造現場や工事現場などの危険は社員全員で周知するべきこと。

日々の安全意識を高め労働災害ゼロを目指しています。



社員が自然につながる社内風土から 新しい発想と製品が生まれる

林野庁の「ウッドチャレンジ2015」のコンペに「TO・MA・RI・GI」という製品で参加し、屋外用木製家具部門の優良作品に選ばれました。岡山県産のヒノキを使い、1本の柱と1枚の座板で構成した、とてもシンプルな“1人がけベンチ”です。他の人に背を向けて座ると“個人の空間”に、人と向かい合うと“和みの空間”になります。仲間6人と意見を出し合いながら、“自然の風景との調和”をコンセプトに作り上げました。

実は、このベンチは木製品部の製品で、当時プレカット部所属の私は、部外からの参加でした。木製

プレカット部 プレカット設計課 係長 こうもと 河本 俊介さん

品部の担当者に「河本さん、こういうの好きでしょう」と誘われて仲間に入ったのです。このような誘いをもらえるのは、弊社の部署の垣根を越えた取り組みにあります。例えば小さな改善案でも提案できる「ちょっと改善」、他の社員の「すごいな」を見つけ出す「ファインプレー賞」などは、活動を通して自然に他部署の人たちとも親密になれます。この自然とつながるコミュニケーションから新しい発想が生まれ、製品がカタチになる。こうした社内風土こそ、わが社のイチオシだと思います。

➡ 「TO・MA・RI・GI」 P244参照